

平成 27 年度 全国学力・学習状況調査結果について

— 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 —

○調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査の実施状況

小学校 113 校 中学校 51 校 特別支援学校 1 校

小学校・特別支援学校小学部 第 6 学年 約 11,200 名

中学校・特別支援学校中学部 第 3 学年 約 9,200 名

○児童生徒に対する調査

〈教科に関する調査〉

小学校調査 - 国語・算数・理科 中学校調査 - 国語・数学・理科

主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

〈質問紙調査〉

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

○学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

○調査実施日 平成 27 年 4 月 21 日 (火)

教科に関する調査結果の概要

1 教科に関する調査の平均正答率

単位：%

		小学校調査						中学校調査					
		国語		算数		理科		国語		数学		理科	
		知識(A)	活用(B)	知識(A)	活用(B)	知識	活用	知識(A)	活用(B)	知識(A)	活用(B)	知識	活用
平成 27 年度 平均正答率 (公立)	川崎市	69.2	67.1	75.8	48.4	59.4	62.2	76.7	68.1	65.8	44.2	62.1	49.7
	全国	70.0	65.4	75.2	45.0	61.3	60.5	75.8	65.8	64.4	41.6	63.8	48.8

* 知識(A)：主として「知識」に関する問題 活用(B)：主として「活用」に関する問題

2 全体の傾向

本市においては、「上記 1」の 12 項目のいずれの平均正答率も全国に対して ±5 ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差の認められないとする範囲内であるので、本市の結果は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

① 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示すとおりであるが、領域等ごとに全体の傾向を、結果の概要については、個々の問題について特徴的なものを領域ごとに取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。

◇：よい状況と考えられる問題

◆：課題があると考えられる問題

小学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■ 文の中の主語及び主語と述語との照応関係を捉える。

■ 提案の内容に対する聞き方の様子から、聞き方の工夫として適切なものを選択する。

■ 説明する文章の書き方の工夫として、具体的な事例を挙げて書くことを選択する。

■ 新聞のコラムを読み、文章全体の構成や引用箇所を捉える。

国語B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■ 目的や意図に応じ、新聞の割り付けをしたり、見出しや記事を書いたりする。

■ 目的に応じ、説明的な文章における中心となる語や文を捉えるとともに、文章と図とを関係付けて読む。

■ 物語の登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えるとともに、登場人物の気持ちの変化について想像しながら音読する。

○全体の傾向 ※[]は全国の値との差

A問題の領域等ごとの平均正答率は、話すこと・聞くこと 56.8% [+3.8]、書くこと 88.8% [+2.0]、読むこと 57.2% [+2.0]、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 74.3% [-2.9] である。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の1(一)漢字を読む設問では、3問の平均正答率が90%を上回っている。しかし、1(二)漢字を書く設問の3問の平均正答率で5ポイント以上全国の平均を下回り、文の中の主語をとらえる設問2(一)の正答率も51.8% [-1.3] と課題がある。

B問題の領域ごとの平均正答率は、書くこと 63.2% [+2.1]、読むこと 69.3% [+1.2] である。また、記述式設問の平均正答率は57.2% [+1.8] で、全国の平均を上回っている。

○領域ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

◆ (A3) 話の内容に対する聞き方を工夫する設問において、聞き方の説明として適切なものを選択することについては、課題がある。(56.8%)

書くこと

◇ (A4) 具体的な事例を挙げて説明する文章を書く設問において、目的や必要に応じて理由や具体的な事例を挙げて記述することは、相当数の児童ができています。(88.8%)

◆ (B2三) 文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くことの設問において、分担の決め方について「分担の図」を基にして書くことについては、課題がある。(45.6%)

読むこと

◇ (B2一イ) 目的に応じ、中心となる語や文を捉える設問において、本文を読み、的確に書き抜くことは、相当数の児童ができています。(86.4%)

- ◆ (A 5 二) 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える設問において、コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜くことについては、課題がある。(22.6%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ (A 1 一) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことにおいては、相当数の児童ができています。(1) 招く(96.4%) (2) 信念(96.4%) (3) 承知(90.0%)
- ◆ (A 1 二(1)) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことについては、課題がある。(1) 浴びる(50.0%)
- ◆ (A 2 一) 文の中における主語を捉える設問において、文の主語として適切なものを選択することについては、課題がある。(51.8%)

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

○目的や意図に応じて聞き方を工夫する指導の工夫

相手の話を聞く際は、相手の話の目的や意図を捉えながら内容を十分に聞き取るとともに、取り上げられた内容について、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめるように指導することが大切である。そのためには、聞くことの学習の機会を意図的・計画的に設定して指導を行い、必要に応じてメモを取りながら整理して聞いたり、取ったメモの内容を整理して相互関係を考えたりするなどの指導を行うことが効果的である。

書くこと

○文章と図とを関係付けて、自分の考えを書くことの指導の工夫

説明的な文章では、書き手が伝えたい内容を読み手に分かりやすく伝えるために、図やグラフなどを用いる場合がある。文章と図やグラフなどを関係付けて読んだり、自分の考えをまとめたりすることは大切である。そのためには、図やグラフなどが添えられた文章を提示し、それらを関係付けて自分の考えを書いたりする指導を意図的にを行い、その際に、文章と図やグラフなどとの関係やその効果を捉えることができるように指導することが必要である。また、図やグラフなどの効果を理解した上で、説明的な文章を書く際に、図やグラフを効果的に用いることができるように指導していくことが重要である。

読むこと

○目的に応じて、適切に引用する指導の工夫

「引用」とは、本や文章の一節や文、語句などを引いてくることである。実生活で生きて働く国語の能力として、引用を目的に応じて、適切に使えるようにすることが大切である。そのために、かぎ（「」）で括ることなど引用の仕方を指導するとともに、引用したことについて、児童が自分の思いや考えを書くことなども指導することが必要である。その際、課題解決を目的とした学習活動を位置づけることにより、引用によって自分の意見が裏付けられることや説得力が増すことなど、児童が引用する目的や必要性を十分に感じ取ることができるように配慮する。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○当該学年までに配当されている習得する指導の工夫

習得した漢字を読んだり書いたりする機会を可能な限り多く設定することにより、確実な定着を図ることが大切である。各教科等の学習や日常生活において文や文章を書くときには、文脈の中で正しく漢字を使うことができているかを確認させるようにする。また、漢字の成り立ちやへん、つくりなどの構成に目を向けさせ、漢字に対する興味や関心を高めることも有効である。中学年からは、国語辞典や漢字辞典を常に手元に置き、日常的に調べる習慣を身に付けさせることにより、漢字の習得や語彙の拡充を図りたい。

小学校 算数

○調査問題の趣旨・内容

算数A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■ 計算の結果のおよその大きさとしてふさわしい数値を選ぶ。

■ 180° よりも大きい角の大きさを求める。

■ 示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選ぶ。

■ 示されている事柄を読み取ることができるグラフを選ぶ。

算数B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■ 日常の事象の解決に図形を見だし、その性質を記述する。

■ 基準量、比較量、割合の関係を基に、示された求め方の誤りを指摘し、正しい求め方を記述する。

■ 図形の性質を基に、示された角の大きさが 30° になる理由を記述する。

■ 概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、その判断の理由を記述する。

○全体の傾向 ※[]は全国との差

A問題の領域ごとの平均正答率は、数と計算 80.3%[+0.2]、量と測定 70.4%[-0.9]、図形 67.9%[+3.3]、数量関係 83.3%[-1.6]である。図形領域では全ての設問で全国の平均を上回り、5(2)円の性質から二等辺三角形の底角を求める設問は6.6ポイント上回っている。

B問題の領域ごとの平均正答率は、数と計算 47.1%[+4.7]、量と測定 45.6%[+3.9]、図形 49.4%[+3.8]、数量関係 45.3%[+2.3]である。図形領域の1(2)平行四辺形の作図に用いられる特徴を選ぶ設問は5.1ポイント、数と計算及び図形領域の3(1)正三角形を作るために巻き尺の持つ位置を求める設問は全国の平均を8.9ポイント上回っている。また、記述式設問の平均正答率は51.4%[+2.4]で、全国の平均を上回っている。

○領域ごとの結果の概要

数と計算

◇ (A 1 (3)) 小数の加法の結果を、減法を用いて確かめる設問において、計算の式に当てはまる数値をかくことは、相当数の児童ができています。(86.3%)

◆ (B 4 (3)) 目標に達するために、12月に3000個のキャップを集める理由を書く設問において、概数を用いた見積りの結果を基に、その理由を説明することについては、課題がある。(25.6%)

量と測定

◆ (A 4 (2)) 180° より大きい角の大きさを求める設問において、 180° や 360° を基に分度器を用いて、その角の大きさを求めることについては、課題がある。(55.6%)

◆ (B 5 (2)) 2つの正方形を組み合わせた図形について、それぞれの対角線の交点を通る直線によりできた図形の面積を求める設問において、面積を2等分する考え方を使って、その図形の面積を求めることについては、課題がある。(52.4%)

図形

◇ (B 1 (1)) 平行四辺形になる辺の組み合わせを選択する設問において、平行四辺形の性質を基に、二組の辺の長さが等しい辺の組み合わせを判断することは、相当数の児童ができています。(95.2%)

- ◆ (B 1 (3)) 二組の道のりが、それぞれ等しくなる理由を記述する設問において、地図から根拠となる平行四辺形を見だし、その性質に基づいて辺の長さが等しくなること、そして、道のりが等しいことを説明することには、課題がある。(27.5%)

数量関係

- ◇ (A 7) ハンカチを5日間持ってきた人数が、学年全体の人数の半分より少ない学年は、4年生だけであることを示しているグラフを選ぶ設問において、グラフに表されている事柄を読み取ることは、相当数の児童ができている。(82.2%)
- ◆ (B 2 (3)) たか子さんが考えた値段の求め方について、誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く設問において、示された買い物の状況とたか子さんの考えを対比して、考えの誤りを指摘し、正しい求め方を筋道立てて考えることについては、課題がある。(51.6%)

○授業改善に向けて

数と計算

○目的に応じて見積りの方法を選択し、その結果を用いて判断し、説明する指導の工夫

概数や概算の指導においては、何のために見積もるのかについて、その目的を明らかにすることが大切である。また、目的に応じた処理をするために見積り方を選択する、処理の結果のおよその大きさを判断する、処理の結果を基に、得られた結果と実際の数と比較して分かることを説明する活動を取り入れるなど、目的に応じた処理のよさを実感することが大切である。

量と測定

○分度器を用いて、角の大きさを正確に測定する指導の工夫

角の大きさの測定については、合同な図形や、縮図や拡大図などの関連する内容においても意図的に取り扱うことで、分度器を用いた角の大きさの測定や作図の技能の定着を図ることができる。180°より大きい角を求めるために、補角を用いた測定方法を判断する活動を取り入れるなどして、確実に角の大きさを測定できるように指導する。

図形

○日常の事象と図形の約束や性質を関連付けて、的確に判断したり考察したりする指導の工夫

図形の性質を学習する際には、図形の約束や性質が日常生活のどのような事象に関連付けられているかを考えることで理解を深めることができる。身の回りのものや地図などから図形を見いだすときは、図形を構成する辺の関係や長さ、角に注目し、示された情報の中から必要な情報を取り出して、一つの図形としてみなすことが大切である。図形の約束や性質を活用して問題解決を図る学習を取り入れることが考えられる。

数量関係

○考えを批判的に考察し、考えの妥当性を評価するとともに、それを基に考えを修正する指導の工夫

自分の考えを振り返り、考えの妥当性を批判的に考察することから、自分の考えを深めたり、広げたりすることが大切である。示された値引き後の値段の求め方を振り返り、数量の関係を正しく捉えているかについて見直すことで、示された求め方の誤りを修正する活動が考えられる。「どうして答えが異なるのか。」と振り返ることから、間違った原因や理由を明らかにするとともに、的確に表現し直す活動を取り入れることが重要である。

小学校 理科

○調査問題の趣旨・内容

〔知識〕 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■メダカの雌雄を見分ける方法を理解する。

■顕微鏡の適切な操作方法を身に付ける。

■水蒸気は水が気体になったものであることを理解する。

■月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解する。

〔活用〕 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述する。

■打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析する。

■水の温まり方について、予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想する。

■電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善する。

○全体の傾向 ※[]は全国の数との差

区分等ごとの平均正答率は、物質 56.8%[-0.6]、エネルギー66.2%[+0.6]、生命 61.8%[+0.6]、地球 59.0%[+1.2]である。物質の知識3(4)のメスシリンダーの名称を答える設問は、13.3ポイント、扱い方を答える設問3(5)が6ポイント、全国の平均を下回っている。一方、物質の活用に関する全ての設問で、全国の平均を上回り、水の温まり方の予想から得られる結果を問う設問3(2)とグラフから溶けきれなくなる砂糖の重さを読み取る設問3(6)は4.7ポイント上回っている。また、記述式設問の平均正答率は48.3%[+3.0]、評価の観点「科学的な思考・表現」の平均正答率は62.2%[+1.7]であり、どちらも全国の平均正答率を上回っている。

○区分等ごとの結果の概要 ※知は主として「知識」、活は主として「活用」に関する問題

物質

◇知3(1) 水蒸気は何であるかを問う設問において、水蒸気は気体で目に見えないという説明を選ぶことは、相当数の児童ができています。(82.8%)

◆知3(4) 示された実験器具(メスシリンダー)の名称を問う設問において、正しい名称を書くことについては課題がある。(57.4%)

エネルギー

◇活1(1) 振り子が1往復する時間に関係する要因を確かめる実験の設問において、適切に条件を制御し、予想の正誤を確かめることは、相当数の児童ができています。(78.2%)

◆活1(2) 振り子時計が遅れないように調整する設問において、振り子が1往復する時間が振り子の長さに関係していると理解し、適切に調整の仕方に役立てることについては、課題がある。(59.0%)

生命

◆知2(4) 顕微鏡についての設問において、状況に応じた必要な操作方法を選択することについては、課題がある。(38.9%)

◆活2(5) 2種類の植物を同時に栽培する方法についての設問において、日光の当たり方と植物の背丈を考慮して適切な植え付け方を考え、説明することについては、課題がある。(46.4%)

地球

◇活4(6) 打ち水の効果について、グラフを読みとり考察する設問において、正しい考察を選ぶことは、相当数の児童ができています。(85.4%)

◆活4(1) 同時刻に見た月の観測事実を基にした設問において、2つの情報を組み合わせて整理し、正しい方位を選ぶことについては、課題がある。(40.1%)

○授業改善に向けて

物質

○器具の名称とともに操作の意味を捉え、適切な扱い方を理解する指導の工夫

メスシリンダーの名称、使用の目的や器具の用途を明らかにするためにも、複数のガラス器具を用意し、比較をする。そして、具体的な操作方法を示すとともに、全ての児童が実際に操作を行うようにすることが大切である。スポイトの先を水の中に入れ、水を抜いて水の量を合わせるといった誤った計量の仕方を具体的に示し、「なぜ、正確な水の量をはかり取ることができないのか」といった失敗から、適切な扱い方の合理性を理解できるようにすることが大切である。

エネルギー

○獲得した知識と身の回りの事物・現象とを関連づけて捉えられるようにする活動の工夫

学習を通して獲得した知識を他の場面や他の文脈で適用する力を付けるために、獲得した知識を実際の自然や日常生活に見られる事物・現象に関連づけて、活用させたりする場面設定が大切である。振り子の場合、メトロノームを活用することも一つの方法である。振り子の運動の規則性とメトロノームの動き方の関連付けを図る活動の充実が知識の定着や思考力・判断力・表現力等の育成につながる。

生命

○顕微鏡を観察する対象やその時の状況に応じて適切に操作できるようにする指導の工夫

演示用の顕微鏡を用意し、実際に見えている視野をテレビモニターに拡大して、同じ画面を共有することが効果的である。これにより、児童全員が操作と見え方を関連付けながら理解することができる。また、顕微鏡の台数を可能な限り整備するとともに、児童が試行錯誤しながら観察、実験を進めることができるように十分な時間を確保したい。

地球

○方位を捉えながら、観察することができるようにする指導の工夫

月や星に興味・関心をもたせ、宿泊を伴う行事で天体観察会など、より多くの観測につながる機会を設けたい。また、効果的な観測を行うためにも日頃から生活している場所、すなわち観測につながる地点の方位を一人一人が感覚的に捉えられるようにする必要がある。そのためにも教室で方位磁針の適切な使い方を確認した後に、外に出て、方位磁針を使って、校舎や近隣にある建物の正確な方位を表現できるようにする。これらの活動を通して、方位磁針の適切な使い方を身につけ、夜間のあらゆる場所で方位を意識した観測をできるようにすることが大切である。

中学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ スピーチの途中で聞き手の反応を見て、とった対応として適切なものを選択する。
■ 意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する。
■ 「なぜ、排水管はS字形になっているのか。」という問いに対する答えとして適切なものを選択する。
■ 漫画の言葉に対応する部分として適切なものを古典の文章の中から選択する。

国語B 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く。
■ 資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く。
■ 文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く。

○全体の傾向 ※[]は全国の数との差

A問題の領域等ごとの平均正答率は、話すこと・聞くこと 82.2% [+2.5]、書くこと 74.8% [+1.2]、読むこと 87.5% [+1.4]、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 73.2% [+0.3] である。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の正答率は、9 (三) の語句の意味を理解し文脈の中で適切に使う設問 (イ) 55.8% [+0.3] (オ) 55.3% [+6.3]、9 (四) ②単語の類別について理解する設問 30.7% [-3.0]、9 (六) 手紙の書き方を理解して書く設問 57.6% [-0.6] であることから基本的な言語の知識の習得に課題がある。

B問題の領域ごとの平均正答率は、話すこと・聞くこと 73.5% [+1.3]、書くこと 40.2% [+3.5]、読むこと 65.4% [+2.8] である。読むこと及び書くことの3 (三) 文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く設問は、全国の平均を5.7ポイント上回っている。また、記述式設問の平均正答率は40.2% [+3.5] で全国の平均正答率を上回っている。

○領域ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- ◇ (A 1 一) 相手の反応を踏まえて話す設問においては、スピーチの途中で相手の反応を見て、適切な対応をすることについては、相当数の生徒ができています。(93.8%)
- ◆ (B 1 三) 資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く設問において、目的や状況、相手に応じて資料や機器などを効果的に活用して話し、活用の理由を根拠をもって説明することについては、課題がある。(58.6%)

書くこと

- ◇ (A 2 二) 書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書く設問において、意見文を直した意図として適切なものを選択することについては、相当数の生徒ができています。(85.4%)
- ◆ (B 3 三) 文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く設問において、文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書くことについては、課題がある。(36.8%)

読むこと

- ◇ (A 3 三) 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する設問において、喜助の言動から読み取れる様子として適切なものを選択することについては、相当数の生徒ができています。(90.8%)

- ◆ (B 2 三) 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く設問において、資料を参考に 2020 年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書くことについては、課題がある。(25.2%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ (A 9 二) 文脈に即して漢字を正しく読むことの設問については、相当数の生徒ができている。(1) 詳細 (79.8%) (2) 袖 (94.3%) (3) 載る (96.8%)、
- ◇ (A 9 五) 毛筆を用いて、楷書で文字を書く設問において、運筆の際の説明に対応する部分として適切なものを選ぶことについては、相当数の生徒ができている。(86.3%)
- ◆ (A 9 四) 単語の類別について理解する設問において、適切な品詞を選択することについては、課題がある。(1) 青い (63.4%) (2) 青さ (30.7%)。

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

○目的や状況、相手に応じて資料を効果的に活用して話す指導の工夫

自分の考えや意見を分かりやすく説明し、相手を説得する力を身に付けることが求められている。話の説得力を増すために、語句や文の効果的な使い方を考え、工夫するとともに、資料の見やすさや提示の仕方など、聞き手の理解を助けるための工夫をして話すことが効果的である。あわせて、機器を有効に使い、どのような資料をどのタイミングで提示するのか、事前に使用する目的などを確認することが大切である。

書くこと

○根拠を明確にして自分の考えを書く指導の工夫

根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く力を身に付けるために、自分の考えの根拠が明確に書かれているかどうかを確かめるように指導することが大切である。その際、根拠となる内容が適切に取り上げられているか、接続語の使用や段落構成の工夫などによって、読み手に対してどの部分が根拠であるかが分かるように示されているかなど、文章を複数の観点から見直すように繰り返し指導することが重要である。例えば、作品の全体を捉え、ある場面の役割を考えさせて、その根拠を書き、自分の考えを支える根拠が明確に書かれているかどうかを検討することが大切である。

読むこと

○多様な情報に触れながら、自分の考えをもつ指導の工夫

多様な情報に触れながら問題意識をもったり、新たな発想を得たりする力を身に付けるために、複数の本や資料から得た情報について、その真偽や適否を見分けるとともに、書かれている内容を自分と結び付けて考えるように指導することが大切である。また、学校図書館やインターネットなどを利用し、目的や意図に応じて主体的に情報を収集する学習活動を取り入れることも重要である。このような学習の積み重ねにより、幅広く読書を行うことの意味を一人一人が実感できるように指導する必要がある。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにする指導の工夫

漢字の指導に当たっては、正確に読み書きができるようにすることに加えて、文脈の中で適切に使えるようにすることが重要である。習得した漢字を活用して、文を書くことを繰り返し指導し、言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、各領域の指導の中で、辞書等を使って適宜、漢字を積極的に調べる機会を意図的に設けることが必要である。また、文脈に即した適切な言葉や、目的に沿った効果的な言葉について考える学習も大切である。

中学校 数学

○調査問題の趣旨・内容

数学A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 正の数と負の数とその計算、文字式の計算をする。一元一次方程式、連立二元一次方程式を解く。
- 平行移動した図をかく。証明の根拠として用いられている合同条件を書く。
 - 反比例のグラフを選ぶ。2つの数量の関係をグラフから読み取る。
 - 与えられた資料の中央値を求める。確率の意味として正しい記述を選ぶ。

数学B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 数量関係を表す式を用いて、投映画面の大きさの適切な考え方を指摘し、その理由を説明する。
- 連続する5つの整数の和について、予想した事柄を説明する。
 - 目的に応じたポップアップカードを作るための山折りの端点の位置を決める方法を説明する。
 - グラフの形に着目し、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。

○全体の傾向 ※[]は全国の数との差

A問題の領域ごとの平均正答率は、数と式 68.6% [+1.4]、図形 63.9% [+0.5]、関数 64.4% [+2.7]、資料の活用 65.4% [+2.4]であり、全ての領域において全国の平均を上回っている。数と式領域の2(2)白いテープの長さを文字で表す設問は5.3ポイント、図形領域の4(1)垂線の作図に用いられる特徴を選ぶ設問は5.5ポイント、関数領域の10(3)比例のグラフから変域を求める設問は6.2ポイント、12(2)時間と道のりのグラフから道のりを読み取る設問は6.5ポイント上回っている。また、資料の活用領域では、全ての設問で全国の平均を上回っている。

B問題の領域ごとの平均正答率は、数と式 65.4% [+2.2]、図形 42.7% [+3.7]、関数 33.6% [+2.9]、資料の活用 31.3% [+0.1]であり、全ての領域において全国の平均を上回っている。図形領域の3(1)条件に合うポップアップカードをつくるために設計図の辺の長さを求める設問は5.2ポイント、関数領域の6(2)表か式を使って円錐の中心角を求める方法を説明する設問は5.8ポイント上回っている。また、記述式設問について、無解答率の平均が全国より下回っており、説明する問題に取り組む生徒の割合が高い状況が見られる。記述式設問の平均正答率は37.4% [+2.6]で、全国の平均を上回っている。

○領域ごとの結果の概要

数と式

- ◇ (B2(1)) 連続する3つの整数の和が中央の数の3倍になることを確かめる式を書く設問において、(中央の数) × 3の式で表すことは、相当数の生徒ができています。(80.6%)
- ◆ (B2(3)) 赤いテープの長さがa cmで、白いテープの長さの3/5倍のとき、白いテープの長さをaを用いた式で表す設問において、数量の関係を文字式で表すことについては、課題がある。(27.5%)

図形

- ◇ (A5(3)) 投影図から立体を読み取り、その立体を選ぶ設問において、投影図から空間図形を読み取ることは、相当数の生徒ができています。(83.2%)
- ◆ (B3(2)) 四角形が平行四辺形になるように点の位置を決める方法を説明する設問において、点の位置を決めるときに、平行四辺形になるための条件を用いて、向かい合う辺が等しいことを根拠として説明することについては、課題がある。(24.3%)

関 数

- ◇ (A12(2)) 時間と道のりの関係を表すグラフを基に、15 分後の道のりを求める設問において、グラフから与えられた時間における道のりを読み取ることは、相当数の生徒ができています。(87.0%)
- ◆ (B 1 (3)) 映像の明るさ 2 倍にするための投映画面の面積の変え方を選び、その理由を説明する設問において、投映画面の明るさは、投映画面の面積に反比例することを見だし、そのことを根拠として説明することについては、課題がある。(14.4%)

資料の活用

- ◆ (A14(1)) 反復横跳びの記録の結果から、中央値を求める設問において、与えられた資料から中央値を求めることについては、課題がある。(48.3%)
- ◆ (B 5 (2)) 落とし物の調査結果についてまとめた表やグラフから、落とし物の状況がよくなっていない理由を説明する設問において、資料の傾向を的確に捉えて、その理由を説明することについては、課題がある。(23.2%)

○授業改善に向けて

数 と 式

○事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表す指導の工夫

事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式で表すために、関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりする活動を取り入れることが考えられる。その際、問題場面、図、言葉の式、文字式等のそれぞれの関連を捉えることが大切である。

図 形

○問題解決の方法や手順を、数学的な表現を用いて的確に説明する指導の工夫

様々な問題を解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかを明らかにすることが大切である。その際、図形の条件や性質などの「用いるもの」とその「用い方」について、説明させる場面を設定することが考えられる。また、用語や関係式については、正確に記述するように指導する。

関 数

○日常的な事象について、言葉で表された式の数学的な意味を考える指導の工夫

言葉で表された式の数学的な意味を考えることができるようにするために、日常的な事象における 3 つの数量の関係を表した式を取り上げ、3 つの数量のうちの 1 つを定数とみて、残りの 2 つの数量の関係を捉える場面を設定することが考えられる。その際、伴って変わる 2 つの数量の関係が反比例の関係にあることを表、式、グラフから考察することが大切である。

資料の活用

○資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する指導の工夫

資料の傾向を的確に捉えることができるようにするために、代表値をデータ分析とともに捉える場面を設定することが大切である。分布の中に極端に離れた値がある資料を用いる場合には、平均値だけでは分布の特徴を的確に把握することができないので、分布を表したグラフに戻って他の代表値に目を向けたり、グラフの形に着目したりする場面を設定することが考えられる。その際、判断の理由をお互いに伝え合い、他者の主張を批判的に考察できるようにすることが大切である。

中学校 理科

○調査問題の趣旨・内容

〔知識〕 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

(例) ■ オームの法則を使って、抵抗の値を求める。

■ 背骨のある動物の名称を答える。

■ 特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求める。

■ 天気の記事から風力を読みとり、その風向を表す風向計を選択する。

〔活用〕 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

(例) ■ 誘導電流が発生する実験において、検流計の針が振れた理由を「磁界」という語句を使って説明する。

■ 化学変化に関する実験の結果を表したグラフを分析して解釈する。

■ 上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる実験を計画する。

■ キウイフルーツがゼラチンゼリーを分解するという自然の事物・現象の観察から見いだした問題を基に、適切な課題を設定する。

■ 水温の違いによる3種類の魚のえらぶたの開閉回数の変化に関する実験の結果から、設定した課題に正対した考察になるように検討して改善する。

○全体の傾向 ※[]は全国の数との差

分野等ごとの平均正答率は、物理 48.1%[-0.8]、化学 56.9%[+0.7]、生物 63.9%[+1.7]、地学 45.6%[-0.8]である。生物の活用に関する全ての設問で、全国の平均を上回り、生物の活用 8 (3)の水温と魚のえらぶたの開閉回数を調べる設問は 6.2 ポイント上回っている。その他にも化学の活用 1 (6)「自らの考えや他者の考えを検討して改善する力」を問う炭酸水素ナトリウムとクエン酸の加熱実験の考察に関する設問、地学の活用 2 (3)地形と風による雲の成因の考察に関する設問、物理の活用 4 (2)目のはたらきを凸レンズで調べる実験の計画に関する設問で全国の数を上回っている。これらのことより、評価の観点「科学的な思考・表現」については 49.7%[+0.9]であるが、良好な状況であるといえる。

○分野等ごとの結果の概要 ※**知**は主として「知識」、**活**は主として「活用」に関する問題

物理

◆ **知** 5 (1) オームの法則を活用する設問において抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求めることについては、課題がある。(57.0%)

◆ **活** 6 (1) 音の波形の特徴から、音の高さと大きさを読みとる設問において、振動数を読みとり音の高さと関連づけることについては、課題がある。(36.4%)

化学

◇ **知** 1 (1) 塩化ナトリウムを化学式で表す設問において元素記号の順序や大文字、小文字の区別をつけて適切な化学式を選ぶことは、相当数の生徒ができています。(82.4%)

◆ **活** 1 (3) 水上置換法で採取できる気体の性質に関する設問において、二酸化炭素の水への溶け方と結びつけて、体積を正確に量れない理由を説明することについては、課題がある。(46.6%)

生物

◇ **活** 7 (2) 実験の結果を分析して解釈し、適切に考察させる設問において、結果が示している「キウイフルーツには、寒天は分解しないがゼラチンを分解するはたらきがある」という適切な記述を選ぶことは、相当数の生徒ができています。(78.1%)

◆ **知** 8 (1) 背骨のある動物を、セキツイ動物と表す設問において、背骨が脊髄ではなく、脊椎であることを理解し、正しく名称を書くことについては、課題がある。(56.8%)

地学

- ◆(知) 2 (2) 天気用図記号の読みとりと、風向計を使った風向の観測に関する設問において、読みとった風向と実際の風向計の動きを関連付けて、適切に示している風向計の図を選ぶことについては、課題がある。(46.3%)
- ◆(活) 2 (3) 雲の成因を説明した他者の考えを検討して改善する設問において、「水蒸気になり、雲ができる」という誤りを指摘することや、空気の上昇による膨張と温度低下、露点への理解については、課題がある。(17.8%)

○授業改善に向けて

物理

○電流と電圧のグラフから傾きの意味を考え、抵抗の大きさの理解につなげる指導の工夫

単に「オームの法則」の公式に数値を当てはめて抵抗の値を計算して求めるだけでなく、2種類の抵抗を用いた電圧と電流のグラフから、抵抗の値の違いを確認する学習場面を設定する必要がある。数学科と関連して、 $y=ax$ を用いて、縦軸と横軸が電圧、電流のどちらを表しているかを意識させ、電圧を縦軸にした場合と電流を縦軸にした場合に a の値が変化することに気づくことができるようにする。その上で傾きの大きさが、流れやすさ、流れにくさのどちらを表しているか理解できるようにすることが大切である。

化学

○物質の性質と実験の操作方法との関連を意識できるようにする指導の工夫

密度や水への溶け方といった気体の特性と気体の捕集法のように、実験操作の仕方にはそれぞれ物質の性質と関連づけられた意味がある。「この物質を扱うときは」「この実験の時には」という文脈ではなく、「このような性質の物質の時には」といった、他の物質や同様の実験のときにも適用できるようにする必要がある。

生物

○実物の観察を通して、基礎的・基本的な知識を身につける指導の工夫

「セキツイ」を「せきずい」と混同する例が見られたように単に言葉として理解した影響が見られる。できる限り実物の観察を通して知識を獲得することが大切である。実物が手に入りにくいときは視聴覚教材を利用するが、食卓に出てくる魚の骨の観察など、食材として手に入りやすいものを教材化し、日常生活と結びつけながら、重要語句の定着を図るなどの工夫が必要である。

地学

○簡易風向計などのものづくりを活用して、理解を深め、活用できる知識として定着させる指導の工夫

簡易風向計など、自分で工夫できる自由度の高いものづくりを行うことが大切である。試行錯誤をくり返すことにより、簡易風向計の動きと実際の空気の流れ方がより密接に関連付けられ、その他の風向計にも応用できるようになる。ものづくりによる既製の製品が完成するプロセスの疑似体験が、科学の有用性の実感や学ぶ意義を高めることにもつながる。

② 学習や生活習慣などに関する質問紙調査

「質問紙調査」の概要は以下に示すとおりであるが、特に記載ある場合を除き、数値には「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合も含めている。

<学習に対する関心・意欲・態度>

国語

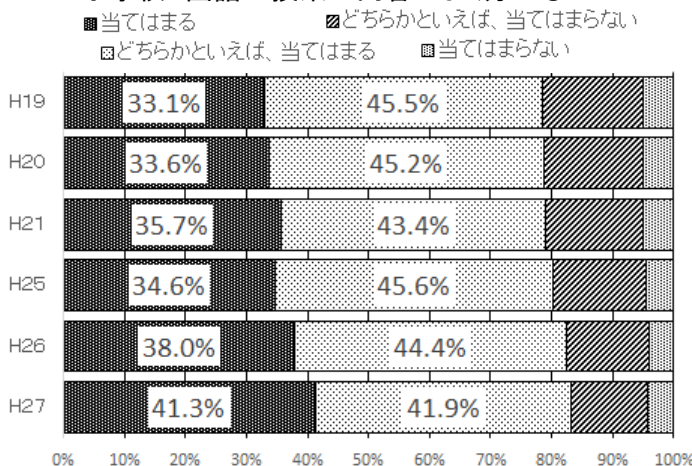
【小学校】

○国語の授業の内容がよく分かる。	H21 79.1%→H26 82.4%→H27 83.2%	全国 82.0%
○国語の勉強は好き。	H21 59.4%→H26 60.9%→H27 63.2%	全国 61.1%
○国語の勉強は大切だと思う。	H21 90.6%→H26 92.0%→H27 92.5%	全国 92.0%
○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	H21 82.6%→H26 86.4%→H27 88.4%	全国 88.6%

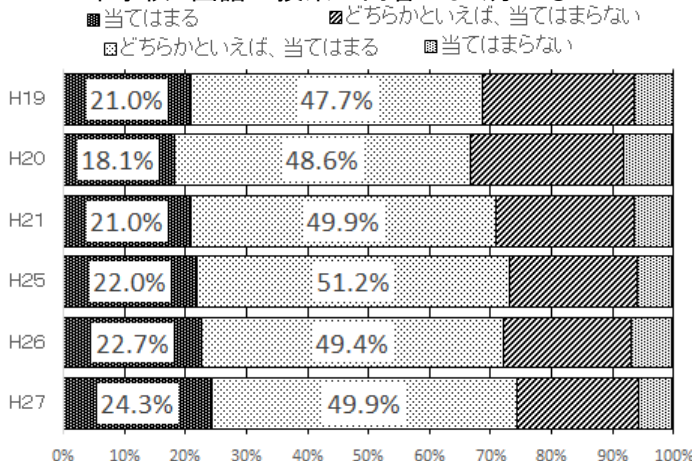
【中学校】

○国語の授業の内容がよく分かる。	H21 70.9%→H26 72.1%→H27 74.2%	全国 74.3%
○国語の勉強は好き。	H21 58.8%→H26 59.4%→H27 62.5%	全国 60.5%
○国語の勉強は大切だと思う。	H21 88.3%→H26 88.4%→H27 88.9%	全国 89.9%
○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	H21 78.9%→H26 81.3%→H27 82.6%	全国 84.2%

小学校 国語の授業の内容がよく分かる



中学校 国語の授業の内容がよく分かる



小学校では、「国語の授業の内容がよく分かる」「国語の勉強は好き」「国語の勉強は大切だと思う」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合が、全ての項目で昨年を上回っている。全国と比較しても同程度以上の割合を示している。このことは、言語活動を充実させた授業の積み重ねの成果であり、今後も、引き続き取り組む必要がある。

中学校においても、肯定的に回答した生徒の割合が、全て、昨年を上回っている。全国と比較しても同程度の割合を示している。このことは、交流の機会を増やし、考える授業を積み重ねてきた成果であり、引き続き取り組む必要がある。

小中学校とも、学習の課題を明確化し、学習の見通しと振り返りを示すことが定着しつつあり、その結果、毎年国語の学習に対する関心・意欲・態度を表す割合が上がってきている。今後も、自ら学び、課題を解決していく能力の育成を重視し、児童生徒主体の言語活動を活発に行うことにより、思考力・判断力・表現力等を育み、実生活に生きて働く国語の能力を身に付けさせる授業づくりを一層進めていきたい。

<学習に対する関心・意欲・態度>

算数・数学

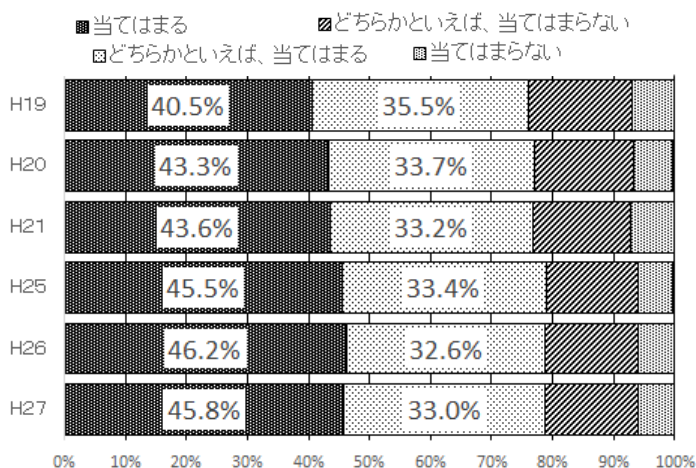
【小学校】

○算数の授業の内容がよく分かる。	H21 78.9%→H26 78.8%→H27 78.8%	全国 81.0%
○算数の勉強は好き。	H21 63.3%→H26 64.4%→H27 63.8%	全国 66.6%
○算数の勉強は大切だと思う。	H21 91.9%→H26 92.2%→H27 93.2%	全国 93.1%
○算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	H21 86.1%→H26 88.1%→H27 90.0%	全国 90.3%

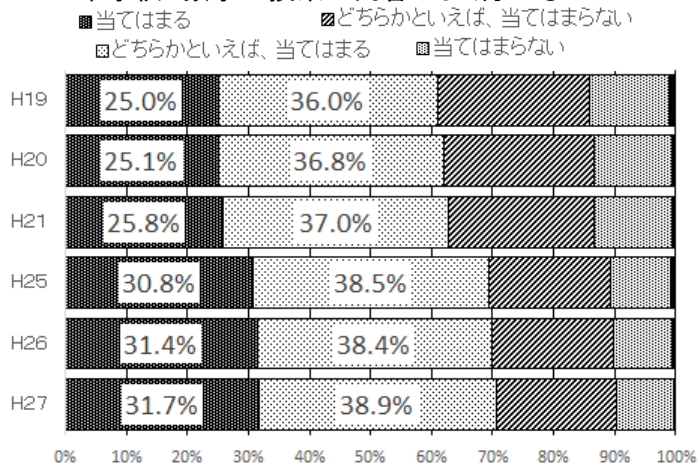
【中学校】

○数学の授業の内容がよく分かる。	H21 62.8%→H26 69.8%→H27 70.6%	全国 71.6%
○数学の勉強は好き。	H21 51.2%→H26 55.8%→H27 55.1%	全国 56.0%
○数学の勉強は大切だと思う。	H21 73.1%→H26 79.3%→H27 79.2%	全国 82.6%
○数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	H21 59.1%→H26 66.6%→H27 67.3%	全国 72.5%
○数学ができるようになりたいと思う。	H21 90.3%→H26 90.8%→H27 91.0%	全国 91.5%

小学校 算数の授業の内容がよく分かる



中学校 数学の授業の内容がよく分かる



小学校では、「算数の授業の内容がよく分かる」「算数の勉強は好き」「算数の勉強は大切だと思う」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した状況は、全国の結果とほぼ同程度なのであるが、「算数の勉強は好き」と回答した児童の割合は、全国を2.8ポイント下回っている。今後とも、算数の好感度を向上させるために、課題について考えたり、算数の知識をもとに発展的・応用的に考えたり、考えたことなどを説明したりする活動を通して、数学的に考えるよさを実感できるように指導する必要がある。

中学校では、「数学の授業の内容がよく分かる」「数学の勉強は好き」「数学の勉強は大切だと思う」と回答した割合は全国の結果とほぼ同程度であるが、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は、全国を5.2ポイント下回っている。今後とも、数学の有用感を向上させるために、数学を日常生活や社会で利用する活動を通して、数学的に考える楽しさやよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育む必要がある。

「算数・数学の授業の内容がよく分かる」については、21年度と比較すると、小学校ではほぼ同程度であるが、中学校では7.8ポイント高くなっている。このことは、生徒の主体的な活動を重視した授業改善の成果であり、引き続き取り組む必要がある。

<学習に対する関心・意欲・態度>

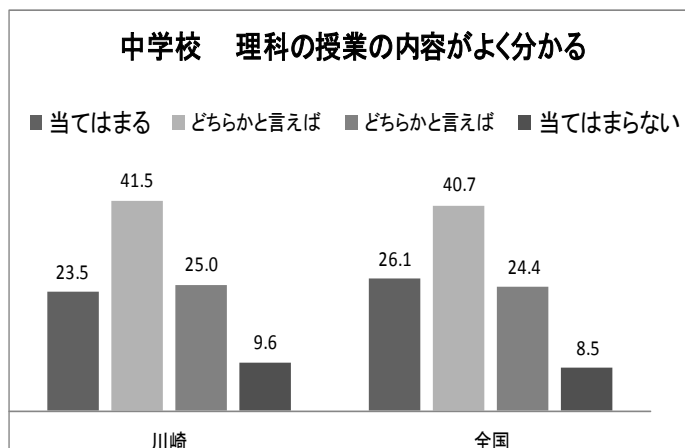
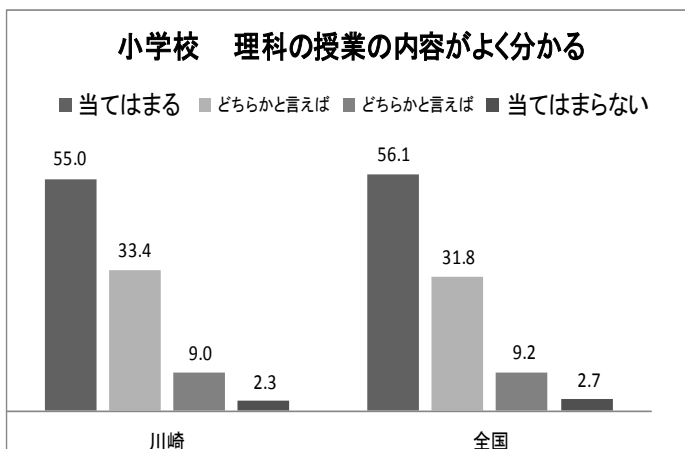
理科

【小学校】

○理科の授業の内容がよく分かる。	H27 88.4%	全国 87.9%
○理科の勉強が好き。	H27 82.8%	全国 83.5%
○理科の勉強は大切だと思う。	H27 86.4%	全国 86.9%
○理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	H27 72.5%	全国 74.5%
○理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。	H27 79.0%	全国 75.3%
○理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。	H27 81.5%	全国 80.4%

【中学校】

○理科の授業の内容がよく分かる。	H27 65.0%	全国 66.8%
○理科の勉強が好き。	H27 59.7%	全国 61.9%
○理科の勉強は大切だと思う。	H27 64.9%	全国 69.3%
○理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	H27 48.7%	全国 54.3%
○理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。	H27 55.3%	全国 55.3%
○理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している。	H27 72.5%	全国 67.2%



小学校では「理科の授業の内容がよく分かる」「理科の勉強が好き」「理科の勉強は大切だと思う」「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した割合は、全国の結果とほぼ同程度であり、「理科の授業で、予想をもとに観察や実験の計画を立てている」と回答した割合は全国を3.7ポイント上回っている。このことは、体験や自然との触れ合いを通して学習問題を設定し、見通しをもって観察や実験に取り組み、予想を確かめたり、問題を解決したりする学習を続けてきた成果である。今後も、目的意識をしっかりとめ、学ぶ意義が実感できる授業づくりを進めていきたい。

中学校では「理科の授業の内容がよく分かる」「理科の勉強が好き」と回答した割合は、全国の結果とほぼ同程度であり、「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している」と回答した割合は全国を5.3ポイント上回っているが、「理科の勉強は大切だと思う」は4.4ポイント、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」は5.6ポイント、全国を下回っており、理科に対する有用感に課題がある。身の回り

にある自然事象に対する疑問を学習問題にして解決したり、授業で学んだ内容が実生活の何に活用されているかを具体的に示したりする授業を通して、実生活とのつながりを意識できる授業づくりを進めていく必要がある。

<自尊感情>

【小学校】

○自分には、よいところがあると思う。

H21 70.5%→H26 78.4%→H27 77.4% 全国 76.4%

○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。

H21 69.5%→H26 75.9%→H27 77.7% 全国 76.4%

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

H21 92.9%→H26 95.1%→H27 95.5% 全国 94.5%

【中学校】

○自分には、よいところがあると思う。

H21 55.9%→H26 65.4%→H27 67.6% 全国 68.1%

○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。

H21 56.9%→H26 66.7%→H27 67.2% 全国 68.8%

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

H21 91.2%→H26 94.9%→H27 93.8% 全国 94.2%

<将来に関する意識>

【小学校】

○将来の夢や目標を持っている。

H21 83.0%→H26 85.1%→H27 84.6% 全国 86.5%

【中学校】

○将来の夢や目標を持っている。

H21 68.4%→H26 69.7%→H27 69.6% 全国 71.7%

「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合は、26年度と比べると、小学校は1.0ポイント低く、中学校は2.2ポイント高く、21年度と比べると、小学校は6.9ポイント、中学校は11.7ポイント高くなっている。26年度との比較では大きな変化は見られないが、21年度との比較では大きな変化が見られ、長期にわたり継続的に自己肯定感を育む活動が、様々な場面で行われていたことがうかがわれる。

また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と回答した児童生徒の割合は、26年度と比べると、小学校は1.8ポイント、中学校は0.5ポイント高く、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した児童生徒の割合は、小学校は約9割強、中学校は約9割で、小学校は全国の割合を上回っている。このことから、失敗を恐れなくて挑戦し、最後までやり遂げた体験をしている児童生徒が増えていることがうかがわれる。

「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は26年度と比べると小中学校とも大きな変化はなく、小学校で約8割、中学校で約7割である。21年度との比較においては改善の傾向にあるが、全国平均を下回っていることから、将来に関する意識には依然として課題がある。

このことから今後も、学校生活や学校行事等を通し、達成感を味わわせ自己肯定感を高める指導や自分の将来に向けても児童生徒が前向きに考えることができる指導が必要である。

<規範意識>

【小学校】

- 学校のきまりを守っている。 H21 81.9%→H26 90.4%→H27 91.4% 全国 91.1%
- 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。 H21 88.5%→H26 94.0%→H27 93.4% 全国 93.9%
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
H21 92.8%→H26 95.8%→H27 95.7% 全国 96.2%
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
H21 90.3%→H26 93.3%→H27 93.7% 全国 93.7%

【中学校】

- 学校の規則を守っている。 H21 83.9%→H26 91.0%→H27 93.1% 全国 94.4%
- 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。 H21 90.0%→H26 94.4%→H27 93.6% 全国 94.9%
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
H21 86.0%→H26 90.4%→H27 91.7% 全国 93.7%
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
H21 87.4%→H26 92.6%→H27 91.8% 全国 93.7%

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」と回答した児童生徒の割合は、26年度と比べると、小学校では0.6ポイント、中学校で0.8ポイント低いが、21年度と比べると小学校、中学校ともに増加傾向が見られ9割を超えている。

一方、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒の割合は、26年度と比べると、小学校は0.1ポイント低く、中学校は1.3ポイント高くなっている。さらに21年度と比べると小学校は2.9ポイント、中学校は5.7ポイント高くなっている。

このことは、各学校において、全ての教育課程を通じていじめを生まない学級や学年、学校の風土づくりを継続的に進めてきた成果であると考えられる。今後も児童生徒自身が集団の一員として、よりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育て、一人一人の気持ちや考えを大切に、協力して取り組む活動を充実させていくことが重要である。

<学習習慣等>

【小学校】

(家庭学習)

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている。 H21 54.4%→H26 58.4%→H27 60.6% 全国 62.8%
○家で、学校の授業の予習をしている。 H21 31.0%→H26 37.4%→H27 36.7% 全国 43.4%
○家で、学校の授業の復習をしている。 H21 31.9%→H26 39.9%→H27 40.8% 全国 54.5%
○家で、学校の宿題をしている。 H21 93.4%→H26 95.7%→H27 96.4% 全国 96.8%

(学習時間)

- 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。
H21 57.0%→H26 57.1%→H27 58.6% 全国 62.7%
○学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする。
H21 48.3%→H26 51.7%→H27 52.8% 全国 56.7%

(学習塾)

- 学習塾で勉強をしている。 H21 60.6%→H26 60.0%→H27 59.8% 全国 47.0%

【中学校】

(家庭学習)

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている。 H21 36.1%→H26 45.0%→H27 45.6% 全国 48.8%
○家で、学校の授業の予習をしている。 H21 25.6%→H26 34.0%→H27 35.3% 全国 35.3%
○家で、学校の授業の復習をしている。 H21 29.7%→H26 38.9%→H27 42.1% 全国 52.0%
○家で、学校の宿題をしている。 H21 76.0%→H26 81.8%→H27 82.6% 全国 89.3%

(学習時間)

- 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。
H21 63.7%→H26 68.6%→H27 70.2% 全国 69.0%
○学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする。
H21 51.9%→H26 60.4%→H27 62.7% 全国 68.7%

(学習塾)

- 学習塾で勉強をしている。 H21 70.0%→H26 72.3%→H27 73.6% 全国 60.9%

「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合は、26年度と比べると、小学校は2.2ポイント、中学校は0.6ポイント高くなっている。また、「家で、学校の授業の予習をしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校は0.7ポイント低く、中学校は1.3ポイント高くなっている。「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した児童生徒の割合が、26年度と比べると小学校は0.9ポイント、中学校は3.2ポイント高くなっている。家庭学習について26年度との比較では、若干の増加傾向が見られるが、全国と比べると割合がやや低い傾向がうかがわれる。

学習塾で勉強する割合が全国より小中学校とも12ポイント以上高いことなどの関連が考えられるが、学校と家庭が情報を共有して家庭学習の習慣づくりを進めていく必要がある。

<言語活動>

【小学校】

- 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。
H21 59.9%→H26 50.4%→H27 49.2% 全国 55.2%
- 400字詰め原稿用紙 2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。
H21 63.4%→H26 56.7%→H27 53.4% 全国 60.1%
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。
H26 68.6%→H27 69.6% 全国 66.9%
- 5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う。
H26 86.4%→H27 86.3% 全国 85.2%
- 5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
H26 84.8%→H27 86.7% 全国 86.7%
- 5年生までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。
新規 H27 77.8% 全国 74.2%

【中学校】

- 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。
H21 71.7%→H26 61.8%→H27 59.2% 全国 64.4%
- 400字詰め原稿用紙 2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。
H21 70.4%→H26 62.8%→H27 60.6% 全国 64.4%
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。
H26 63.1%→H27 64.3% 全国 62.9%
- 1、2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思う。
H26 79.8%→H27 80.9% 全国 78.2%
- 1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
H26 80.9%→H27 85.0% 全国 85.9%
- 1、2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。
新規 H27 73.1%

「授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答した児童生徒の割合は、26年度と比べると、小学校は1.2ポイント、中学校は2.6ポイント低く、21年度と比べると、小学校は10.7ポイント、中学校は12.5ポイント低くなっており、改善の傾向にある。

「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した児童生徒の割合は26年度と比べると小学校で1.0ポイント、中学校で1.2ポイント高く、全国と比べても小学校で2.7ポイント、中学校で1.4ポイント高くなっている。また、新規の質問「授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた」と回答した児童生徒の割合は、小中学校とも約7割を超え、全国より高い割合になっている。

このことは、自分で立てた課題の解決に向けて、お互いの考えを出し合い、話し合いを整理し発表するなどの言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育てる授業づくりが小中学校を通じて進められている成果である。引き続き各教科等で言語活動の充実を推進していくことが大切である。

<指導状況>

【小学校】

○5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う。 新規 H27 84.4% 全国 87.1%

【中学校】

○1、2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う。 新規 H27 68.7% 全国 73.7%

新規の質問「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた」と回答した児童生徒の割合は、小学校では約8割、中学校では約7割となっている。全国と比べると小学校では2.7ポイント低く、中学校では5.0ポイント低くなっている。

授業においては学習目標を明確に児童生徒へ示し、学習内容を振り返る時間を大切にした授業づくりや思考過程がわかるノート指導の充実を図る必要がある。

<学校生活等>

【小学校】

○学校に行くのは楽しいと思う。 H25 86.1%→H26 88.8%→H27 88.4% 全国 87.0%

○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。 H26 87.3%→H27 87.1% 全国 86.1%

○学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う。 新規 H27 83.3% 全国 80.5%

【中学校】

○学校に行くのは楽しいと思う。 H25 80.1%→H26 81.9%→H27 82.4% 全国 82.1%

○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。 H26 84.2%→H27 84.5% 全国 84.2%

○学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う。 新規 H27 82.2% 全国 78.3%

「学校に行くのは楽しいと思う」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに8割を超えており、仲間と協力して活動することに楽しさを感じている様子が見える。また、新規の質問「学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う」と回答した児童生徒の割合は、小中学校とも8割を超えており、全国の平均を上回っている。

このことから、学級内で児童生徒同士が協力をし合ったり、話し合ったりする活動が、児童生徒たちの実感をともなった形で活発に行われていることが見える。

今後とも、学校では、児童生徒がやり遂げた喜びを感じられる教育活動を進めるとともに、教師が児童生徒のよさを具体的に認め、評価していくことが重要である。

<家庭でのコミュニケーション等>

【小学校】

○家の人と学校での出来事について話をする。 H21 68.5%→H26 81.2%→H27 79.9% 全国 79.5%

○家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ている。

H26 96.1%→H27 96.2% 全国 96.6%

【中学校】

○家の人と学校での出来事について話をする。 H21 56.7%→H26 70.1%→H27 72.1% 全国 73.7%

○家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ている。

H26 84.2%→H27 85.7% 全国 83.4%

「家の人と学校での出来事について話をする」と回答した児童生徒の割合は、26年度と比べると、小学校は1.3ポイント低く、中学校は2.0ポイント高くなっている。21年度と比べると、小学校11.4ポイント、中学校は15.4ポイント高くなっている。また、「家の人、授業参観や運動会などの学校の行事に来ている」と回答した児童生徒の割合は、小学校で9割、中学校で8割を超え、若干の増加傾向がうかがえる。

このことから、児童生徒たちの意識だけでなく、保護者も積極的に学校行事等に参加して、学校の出来事を家庭で話題にしていることがうかがえる。今後とも、学校と保護者、地域が行事等の情報を共有し、一緒に学校や地域づくりを進めることが、家庭でも学校や地域の出来事について話をする機会につながると考えられる。

<基本的な生活習慣>

【小学校】

○朝食を毎日食べている。 H21 95.1%→H26 95.7%→H27 94.9% 全国 95.6%

○毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 H21 70.2%→H26 77.0%→H27 77.6% 全国 79.5%

○毎日、同じくらいの時刻に起きている。 H21 87.1%→H26 89.0%→H27 89.4% 全国 91.0%

○普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする。

H21 29.9%→H26 31.8%→H27 31.4% 全国 30.2%

【中学校】

○朝食を毎日食べている。 H21 89.9%→H26 91.6%→H27 91.1% 全国 93.5%

○毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 H21 64.8%→H26 70.7%→H27 71.8% 全国 75.2%

○毎日、同じくらいの時刻に起きている。 H21 88.6%→H26 89.7%→H27 90.2% 全国 92.1%

○普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上テレビゲームを（コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）する。

H21 25.4%→H26 41.1%→H27 41.1% 全国 36.3%

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童生徒の割合は、26年度と比べると、小学校は0.6ポイント、中学校は1.1ポイント高くなっている。全国と比べると、小学校は1.9ポイント、中学校は3.4ポイント低くなっている。また、「普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上テレビゲームをする」と回答した児童生徒の割合は、26年度と比べると、大きな変化は見られないが、21年度と比べると、小学校は1.5ポイント、中学校は15.7ポイント高くなっている。

このことは、児童生徒の携帯電話やスマートフォンの所有率が年々高くなったことが影響していると考えられる。基本的な生活習慣や家庭学習の側面からも、使用時間や使用方法などについては各家庭で約束事を決めるなど、家庭への協力を働きかける必要がある。

<地域との関わり>

【小学校】

○今住んでいる地域の行事に参加している。 H21 45.8%→H26 53.6%→H27 53.1% 全国 66.9%

【中学校】

○今住んでいる地域の行事に参加している。 H21 27.9%→H26 31.2%→H27 34.3% 全国 44.8%

<社会に対する興味・関心>

【小学校】

○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。

H25 56.2%→H26 63.2%→H27 66.6% 全国 63.9%

○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。

H25 34.6%→H26 40.7%→H27 45.0% 全国 44.8%

【中学校】

○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。

H25 48.4%→H26 52.3%→H27 52.2% 全国 55.9%

○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。

H25 20.8%→H26 25.9%→H27 27.5% 全国 32.9%

「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童生徒の割合は、26年度と比べると、小学校は3.4ポイント高く、中学校は0.1ポイント低くなっている。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した児童生徒の割合は、26年度と比べると、小学校は4.3ポイント、中学校は1.6ポイント高くなっている。

また、「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合は、26年度と比べると、小学校は0.5ポイント低く、中学校は3.1ポイント高くなっている。しかし、全国と比べると、小学校で13.8ポイント、中学校で10.5ポイント低くなっていることから、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるものの、今住んでいる地域の行事に参加した体験が少ない傾向がうかがえる。

総合的な学習の時間や行事等を通して、児童生徒の主体的な活動を多く取り入れ、地域と連携した学校づくりを進めていくことが大切である。